

# 施策評価（令和3年度）

施策評価調書
--------

基本政策3 安全・安心な生活環境の確保			
施策（2）暮らしやすい生活環境の確保			
幹事部局名	生活環境部	担当課名	生活衛生課
評価者	生活環境部長	評価確定日	令和3年8月26日

## 1 施策のねらい（施策の目的）

快適で暮らしやすい生活環境を実現するため、食品や水道の安全・安心の確保のほか、生活衛生の維持向上のために環境づくりを進めるとともに、人と動物が調和しつつ共生する「動物にやさしい秋田」の実現に向けて、動物愛護の取組を県民との協働により進めます。

## 2 施策の状況

### 2-1 代表指標の状況と分析

代表指標①		年度	現状値 (H28)	H29	H30	R1 (H31)	R2 (H32)	R3 (H33)	備考
犬猫の年間殺処分数(頭)	目標				179	0	0	0	
	実績		578	343	373	385	811		
	達成率				-8.4%	-	-		
出典: 県生活衛生課調べ		指標の判定			d	n	n		
分析 (推移、実績・達成率、順位等)	順位等	全国	-	-	-	-	-		
	東北	-	-	-	-	-	-		
<ul style="list-style-type: none"> <li>平成31年4月に動物愛護センターが開設されたことにより、犬猫の譲渡頭数は増加し（509頭（対前年度比+128頭））、「譲渡適性はあるがやむを得ず殺処分した犬猫」の数は、減少した（18頭（対前年度比△27頭））。</li> <li>殺処分した頭数は、犬（54頭（対前年度比+20頭））、猫（757頭（対前年度比+406頭））ともに増加した。適切な譲渡先が見つからない犬が増加（13頭（対前年度比+13頭））したほか、危害を及ぼす恐れがある猫（228頭（対前年度比+130頭））、幼齢のため死亡した猫（154頭（対前年度比+105頭））、死因不明の猫（32頭（対前年度比+24頭））が増加した。</li> </ul>									

代表指標②		年度	現状値 (H28)	H29	H30	R1 (H31)	R2 (H32)	R3 (H33)	備考
秋田県HACCP認証延べ件数(件)	目標				140	160	180	200	
	実績		108	119	134	151	188		
	達成率				95.7%	94.4%	104.4%		
出典: 県生活衛生課調べ		指標の判定			b	b	a		
分析 (推移、実績・達成率、順位等)	順位等	全国	-	-	-	-	-		
	東北	-	-	-	-	-	-		
<ul style="list-style-type: none"> <li>平成30年の食品衛生法改正によるHACCPに沿った衛生管理の制度化に伴い、HACCPに取り組む食品等事業者は増加している。</li> <li>令和2年度は、3年6月の完全制度化を前に食品等事業者が積極的に導入に向けて取り組んだこともあり、前年度以上の新規認証件数となった（37件（対前年度比+20件））。</li> </ul>									

#### ※ 指標の判定基準

「a」：達成率 $\geq$ 100% 「b」：100% $>$ 達成率 $\geq$ 90% 「c」：90% $>$ 達成率 $\geq$ 80%

「d」：80% $>$ 達成率 又は 現状値 $>$ 実績値(前年度より改善) 「e」：現状値 $>$ 実績値(前年度より悪化)

「n」：実績値が未判明

2-2 成果指標・業績指標の状況と分析

							施策の方向性①	
成果・業績指標①	年度	現状値 (H28)	H29	H30	R1 (H31)	R2 (H32)	R3 (H33)	備考
動物とのふれあい事業等参加者数(人)	目標			5,000	10,000	11,400	12,800	
	実績	2,339	6,001	7,280	52,070	34,586		
出典:県生活衛生課調べ	達成率			145.6%	520.7%	303.4%		
分析 (推移、実績・達成率、順位等)	順位等	全国	—	—	—	—	—	
		東北	—	—	—	—	—	
・動物愛護センターが開設2年目となり、来場者が落ち着いたため来場者数は前年度よりも減少したが、目標は大きく上回った。								

							施策の方向性②	
成果・業績指標②	年度	現状値 (H28)	H29	H30	R1 (H31)	R2 (H32)	R3 (H33)	備考
食品安全に関する研修会・懇談会等への参加者数(人)	目標			1,200	1,200	1,200	1,200	
	実績	1,204	592	1,016	1,037	396		
出典:県生活衛生課調べ	達成率			84.7%	86.4%	33.0%		
分析 (推移、実績・達成率、順位等)	順位等	全国	—	—	—	—	—	
		東北	—	—	—	—	—	
・食品安全セミナー事業が廃止されたことや、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため3密回避が推奨され、開催回数及び各回参加人数が激減したこと等が影響し、実績は目標値を大きく下回った。								

2-3 施策の取組状況とその成果（施策の方向性ごとに記載）

(1) 「動物にやさしい秋田」の推進【生活衛生課】	指標	代表①、成果①
<ul style="list-style-type: none"> <li>犬のしつけ方教室を開催し、飼い主に対し助言・指導した（講習会形式5回&lt;△2回&gt;、個別相談形式3回&lt;△11回&gt;、参加者99人&lt;△90人&gt;）。</li> <li>小中学校等からの依頼を受け、命の大切さを啓発するため「命を大切にすることを育む教室」を開催した（出張13回&lt;+9回&gt;、体験受入4回&lt;△8回&gt;、参加者1180人&lt;+716人&gt;）。</li> <li>収容された犬猫1177頭&lt;+456頭&gt;のうち509頭&lt;+128頭&gt;を譲渡した。</li> </ul>		
<新型コロナウイルス感染症の影響>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>犬のしつけ方教室について、実施回数を減らしたことにより、参加者数が減少した。</li> </ul>		

(2) 食品や水道の安全・安心の確保【生活衛生課】	指標	代表②、成果②
<ul style="list-style-type: none"> <li>HACCP普及講習会を開催し、HACCPの普及及び認証の推進を図った（111回&lt;+70回&gt;、参加者2974人&lt;+2087人&gt;）。</li> <li>食品安全セミナー（令和元年度：1回、107人）に代えて、意見交換ができる対話形式の地域懇談会を開催し、食品の安全・安心に関する情報の提供と共有を図った（8回&lt;△12回&gt;、参加者396人&lt;△534人&gt;）。</li> </ul>		
<新型コロナウイルス感染症の影響>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>HACCP普及講習会について、3密回避のため少人数制で、実施回数を増やしたことにより、参加者総数は増加した。</li> <li>地域懇談会について、3密回避のため少人数制で実施したことにより、参加者数が減少した。</li> </ul>		

(3) 生活衛生営業者の育成【生活衛生課】	指標	—
<ul style="list-style-type: none"> <li>理美容業、クリーニング業、飲食業などの生活衛生関係業者から、経営・融資等に係る相談を受け、営業者の経営の維持・向上や、設備更新のための借入など、衛生水準の向上に関する助言指導等を行った（167件&lt;△37件&gt;）。</li> <li>中高生に生活衛生関係営業に関する理解と関心を深めてもらうため、県内の4高校でプロの料理人を講師に招いて実習を行ったほか、1中学校で現役の理容師による実演と意見交換を行った（197名&lt;+51名&gt;）。</li> <li>県内6か所において、感染症の研究者に講演を依頼し、生活衛生業における感染症予防に関する講習会を開催した（178名&lt;△80名&gt;）。</li> </ul>		
<新型コロナウイルス感染症の影響>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>講習会の参加者数が減少した。</li> </ul>		

### 3 総合評価結果と評価理由

総合評価	評価理由
C	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 代表指標の達成状況については、①「犬猫の年間殺処分数」は「n」判定、②「秋田県HACCP認証延べ件数」は「a」判定であり、定量的評価は「N」。</li> <li>● 代表指標①に関しては、犬は適切な譲渡先が見つからない個体が増加し、猫は危害を及ぼす恐れがある個体、幼齢のため死亡した個体、死因不明の個体が増加し、目標の達成には至らなかったものの、「譲渡適性はあるがやむを得ず処分したもの」に該当するのは18頭にとどまり、前年度の45頭より減少している。これは譲渡頭数が前年度の381頭から509頭に大幅に増加したことが要因であり、平成31年4月に開設した動物愛護センターの取組が奏功している。また、犬猫譲渡会等の動物とのふれあい事業への参加者も大幅に増加しており、動物愛護センターの開設が、県民の動物愛護意識向上に寄与しているものと考えられる。</li> <li>■ 代表指標の達成状況や施策の取組状況とその成果など総合的な観点から評価した結果、総合評価は「C」とする。</li> </ul>

● 定量的評価：代表指標の達成状況から判定する。

「A」：代表指標が全て「a」、「B」：代表指標に「b」があり、「c」以下がない、「C」：代表指標に「c」があり、「d」以下がない

「D」：代表指標に「d」、「e」を含む。ただし、「E」、「N」に該当するものを除く、「E」：代表指標が全て「e」、「N」：代表指標に「n」を含む

● 定性的評価：成果指標・業績指標の達成状況を踏まえた上で、施策の取組状況とその成果、外的要因等から判定する。

■ 総合評価：定量的評価を踏まえた上で、定性的評価を考慮して、総合的な観点から「A」、「B」、「C」、「D」、「E」の5段階に判定する。

### 5 課題と今後の対応方針

施策の方向性	課題(施策目標達成に向けた新たな課題、環境変化等により生じた課題 など)	今後の対応方針(重点的・優先的に取り組むべきこと)
(1)	○ 飼養や譲渡の困難な幼弱猫の引取り頭数が増加している。	○ 所有者の判明しない猫からの出産を防ぐために地域猫や地域猫になっていない猫の不妊去勢手術をTNR(トラップ・ニューター・リターン)として実施し、かつ、猫の適正飼養(終生飼養、室内飼養等)の一層の啓発を図り、譲渡の困難な幼弱猫を減少させる。また、幼弱猫の授乳ボランティアの育成及び愛護団体との合同譲渡会の開催により、譲渡頭数の更なる増加を図り、殺処分数を減少させる。
(2)	○ 食品衛生法の改正によりHACCPが制度化され、すべての食品等事業者がHACCPに沿った衛生管理が求められることとなり、食品等事業者が取引先より県HACCP認証の取得を求められるケースが増えている。	○ 食品衛生責任者を対象とした講習会の実施や、簡易な手引き書による普及啓発、監視時における指導などを通じて法令遵守を指導するほか、県HACCP認証の相談に対しては、引き続ききめ細やかに支援を行う。
(3)	○ 飲食店や理容店、美容室などの生活衛生関係営業は、県民の生活に欠くことのできないものであるが、人口減少・少子高齢化に伴う利用者の減少、経営者の高齢化、後継者不足の深刻化に加えて、新型コロナウイルス感染症の影響により、そのサービスの低下や事業の継続について懸念されている。	○ 営業者からの相談対応の役割を担っている(公財)秋田県生活衛生営業指導センターへの支援を通じて、営業者の持続的な経営や後継者育成につなげる。また、営業者が直面している新型コロナウイルス感染症への対応について、生活衛生同業組合等を通じて、業種別ガイドライン等の普及啓発を促進する。

### 6 政策評価委員会の意見

自己評価の「C」をもって妥当とする。
--------------------